

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	田中 誠	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

本講では、ソーシャルワーク実践の土台となる、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論とジェネラリスト・ソーシャルワークについて基礎的に学ぶ。その上で、多様な対象が抱える多様な問題に対応する様々な実践モデルとアプローチについて応用的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 対象への働きかけを行うソーシャルワーク実践の基礎について、ソーシャルワークの定義と枠組み、構造と機能から理解できる。
- 2) 対象の違いにより働きかけの方法を変えるソーシャルワーク実践の応用について、ソーシャルワーク実践の系譜から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 相談援助とは①（ソーシャルワークの定義と枠組み）
- 第 3 回 相談援助とは②（ソーシャルワークを構成する要素とソーシャルワークの職場）
- 第 4 回 相談援助の構造と機能①（ソーシャルワークの構造）
- 第 5 回 相談援助の構造と機能②（ソーシャルワークにおけるニーズと機能）
- 第 6 回 人と環境の相互作用①（一般システム理論）
- 第 7 回 人と環境の相互作用②（サイバネティックス、自己組織性、その他）
- 第 8 回 様々な実践モデルとアプローチⅠ（実践モデルとその意味、治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーク）、第9～13回の授業の準備
- 第 9 回 第9～13回の授業の準備
- 第 10 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ①（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ）
- 第 11 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ②（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ）
- 第 12 回 様々な実践モデルとアプローチⅡ③（危機介入アプローチ、行動変容アプローチ）
- 第 13 回 様々な実践モデルとアプローチⅢ（エンパワメントアプローチ、ナラティブ）
- 第 14 回 確認問題と振り返り①
- 第 15 回 確認問題と振り返り②

【授業実施方法】 講義とグループによる調査研究・発表で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、対象が抱える問題と社会の関係について確認すること。

【教科書など】

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版。
- ・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・小野哲郎『新・ケースワーク要論—構造・主体の理論的統合化』ミネルヴァ書房。
- ・ジョンソン, L. C. ・ヤンカ, J. S., 山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房。
- ・パールマン, H. H., 松本武子訳『ソーシャル・ケースワーク—問題解決への過程』全国社会福祉協議会。
- ・リッチモンド, M., 小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 10%、中間レポート 40%、期末試験（筆記） 50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴなど

【学生へのメッセージ】

期末試験対策としては反復的な学習が重要となります。予習・復習を必ず行い、理解を確実にするとともに、地域社会の動向にも関心を持ちながら受講してください。